



令和3年度 横浜市立宮谷小学校 学校だより 5月号

みやがや

<学校教育目標>

響き合う豊かな学びの中で自分を見つめ互いに思いやる子を育てます

【知】 学び合う楽しさを知り、問題解決に向け主体的に取り組む子を育てます。【学び合い】

【徳】 社会や学校のきまりを守り、やさしく思いやりのある子を育てます。【思い合い】

【体】 お互いの生命と体を大切にし、生涯を通してよりよく健康な生活ができる子を育てます。【気づき合い】

【公・開】 さまざまな人々と豊かなかかわり合いを大切にしながら、わたしたちのまちに誇りをもって生活する子を育てます。【かかわり合い】

「さあ、きょうから」

副校長 薄田 秀明

横浜駅に近く、歴史ある宮谷小学校に4月より着任しました。よりよい学校にしていきますので、今後ともよろしく願いいたします。

ある朝、見守り隊の皆様とともに子どもたちの登校の様子を見てみると、大きなランドセルを背負った1年生が“春の道”を緊張しながらも、うれしそうに歩いていました。

「新しい御本、新しい鞆に。/新しい葉っぱ、新しい枝に。/新しいお日さま、新しい空に。/新しい四月、うれしい四月」(『金子みすゞ童謡全集』JULA 出版局)——童謡詩人・金子みすゞさんの作品「四月」そのものの姿でした。4月は、新しい生活が始まり、気持ちも新たにスタートできたのではないのでしょうか。当然私もその一人で、宮谷小学校着任1年生です。

「1年生」と聞くと、若々しくフレッシュなイメージを持ちます。世の中にも、多くの「1年生」スタートした人たちがいると思います。その中で「1年生」にまつわるお話を紹介します。

ある日本酒造りの最高責任者である杜氏は、酒造りを長年、経験しても「毎年が小学1年生」と自戒するそうです。日本酒は米と水とこうじの組み合わせで造りますが、米の出来ひとつ、水のおいしさひとつ、こうじ菌の状態ひとつで味は微妙に違ってきます。19歳から酒造り一筋の杜氏が語っていたことが印象的でした。「何十年、杜氏をしているからと慣れきったような思い上がった根性では、とてもとてもできない。毎年が小学1年生のつもりで、そして、毎日毎日、気を抜かないで仕事を続けていくことが基本です。現状に満足しないで、絶えず研究心を持つことが一番大事じゃないかと思う」。私は、これを知って、驚きました。杜氏の長年の勘に頼ることなく、その時々状況を的確にとらえ、常に最高のものを作りだそうとする姿勢に脱帽するとともに、襟を正す思いになりました。

本校の職員も日々、子どもたちの成長を願い、“最高の授業に取り組もう”、“きれいな学校にしよう”、“おいしい給食をつくろう”と絶えず努力している姿を目の当たりにしています。「毎日が1年生」との清新な気持ちで、「さあ、きょうから!」「いよいよ、これから!」「今この瞬間から!」とただただひたすらに進む姿勢が、輝く未来につながっていきます。心の持ち方で状況をいかようにも変えることができます。

地域・家庭・学校が、がっちり手を組んで、子どもたちの輝かしい未来のために、「さあ、きょうから」という思いで、1日をスタートしたいと思います。

5月は大型連休がありますので、健康に留意してお過ごしください。